

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 11章1～4節＞

1 (先週のおさらい) 祈りは祈る相手 (神様) を思うことから始める。

イエス様は、「祈るときはまず神様を思うことから始めなさい」と教えられました(2節)。その神様が本当に信じていい神様なら、どんな問題を抱えていても、そうすることで心が落ち着くはずだからです。

2 「私たちに必要な糧を毎日与えて下さい」(3)から教えられること。

イエス様は、1の次に、「私たちに必要な糧を毎日与えて下さい(3)と祈りなさい」と教えられました。繰り返しますが、「1の次」、つまり、恵み深い神様の支配の下に置かれていることを思う中でこう祈るという点がまず大事です。だから、「私たちに必要な糧」を「毎日」なのです。その日の分だけ求めて祈るのであって、もっと先の分も求めて祈れとは言われていないのです。神様を本当に信じているならそれで十分だからです。マナの出来事(出エジプト 16:15以下)や、倉を大きくした金持ちの例え(ルカ 12:12以下)、「明日のことは明日思い煩え」(マタイ 6:34)というイエス様の教えなど、色々な聖書の個所の教えと同じです。

3 (4a) 信仰者となった者が祈れる積極的かつ謙虚な祈り。

4節の前半は、「罪を犯した人を赦すから私の罪も赦してくれ」と神様に交換条件を示しているように聞こえるかもしれませんが、しかし、主の祈りはイエス様が弟子たちに教えた祈り、つまり、「信仰者となった者が祈る祈り(エレミアス)」ですから、そうではありません。むしろ、「私の罪を赦して下さいあなたの赦しに深く感謝しています。だからそれにお応えして、私もまた罪を犯した人を赦そうと思います。しかしななお罪を犯してしまう私ですから、できない時はどうぞお赦し下さい」という意味です。キリストと結ばれて新しく創造された者に託された和解の任務に向かう心意気と謙虚さを思うべきなのです(1コリ 5:16-21)。

4 (4b) 「誘惑に遭わせないで下さい」と祈る意味は。

3で述べたように、私たちは新しく創造された者であるのになお罪を犯してしまう存在です。神様に赦されたことを感謝しても、なお自分の思いの中に居続けて人の罪をなかなか赦せず、神様に全てを委ね切れないのもその一例です。ですから、信仰者になっても罪を犯さないようにと神様に祈るのです。さらに大事なことは、イエス様はその罪も十字架に伴って死んで下さったことです。この神様の破格の恵みを覚え、罪の誘惑に負けず、神様を悲しませないように取り組んでいきましょう。